



おかげ様で
県立図書館は
100周年

平成 25 年 6 月 27 日
佐賀県立図書館 企画・広報担当
担当者 高井 諸岡
内線 3711 / 直通 0952-24-2900
E-mail: saga-kentosyo@pref.saga.lg.jp

県立図書館開館 100 周年記念展示 「人生 100 年設計を考える」を開催します

佐賀県立図書館（当時は佐賀図書館）が開館し、平成 25 年度で 100 周年を迎えます。これに因み、当館では、「100」をキーワードに様々な角度からの企画展示を開催していきます。

第 1 弾は、「人生 100 年設計を考える」です。人生 100 年を設計図に起こし、それぞれの年代で起こり得るであろう出来事に関する本を、設計図に沿って展示します。同じ出来事でも、年代別に考えると新たな発見があるかも知れません。

多くの皆さんに、本を通して考える「人生 100 年設計」、皆さんの今の気持ちに寄り添えたら幸いに思います。どうぞ、お楽しみください。

記

1 展 示 名

県立図書館 100 周年記念展示 第 1 弾 「人生 100 年設計を考える」

2 日 時 平成 25 年 6 月 27 日（木曜日）～7 月 30 日（火曜日）

3 時 間 9 時～20 時

4 場 所 県立図書館 1 階 展示ホール

5 内 容

人は生まれてから、死ぬまでの間、どんな時期に、どんな出来事と直面するのでしょうか。

それぞれの年代で起こり得るであろう出来事や興味・関心などを、人生の設計図に沿って、この年でこの本と出会いたかった、この年代でこの本と出会って得ることがあった、この年代になったらきっとこんな本を読むだろう、そんな気持ちで、当館職員が本を選書しています。

【一部紹介】

同じ「死」を題材に捉えるとしても、年代によって読む本が異なります。

○10代に並ぶ本

『大切な人が死んじゃった』トレボー・ロメイン／著、大月書店／刊

内容：子どもが大切な人の死に出会い、悲しみやつらさ、喪失感や恐怖感を抱いたとき、また、子どもから死について尋ねられたとき、どんなふうにかたえますか。悲しみをいやす様々な試みを子どもにも良くわかるように解説。

○50代に並ぶ本

『親を亡くしたあなたへ』ジーン・セイファー／著、飛鳥新社／刊

内容：多くの人が中高年になって親を失うが、心の準備ができていない人はめったにいない。親の死という経験が、深い自己成長をもたらし、人生を好転させるチャンスでもあることを明らかにする。

○80代に並ぶ本

『相続・遺言の法律相談』高岡信男／編著、学陽書房／刊

内容：相続放棄、寄与分、遺産、遺産分割、遺言、遺留分、登記、涉外相続、税金など、相続・遺言に関する実務上のあらゆるポイントを118のQ&Aで詳細に解説。書式も多数収録。

『「終活」のすすめ』市川愛／著、太陽出版／刊

内容：「終活」とはお葬式の準備に限ったことではありません。葬儀相談員である著者が、この世を去るその時、遺される家族や友人にできるだけ迷惑をかけず、負担を軽くしてあげ、爽やかに旅立つための備えを紹介します。



(※展示している本は一部を除き借りることができます。)